

■追悼記事

松下正さんを偲んで

雨宮慶幸 (東京大学 名誉教授)

2003・2004年度の日本放射光学会会長として、また、高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所副所長(Photon Factory 施設長)として、我が国の放射光研究の発展に貢献された松下正さんが、2017年7月7日に72歳で病気のため、ご逝去されました。

松下さんは1945年1月に東京でお生まれになり、1972年3月に東京大学工学系研究科物理工学専攻の博士課程を修了され工学博士の学位を授与されました。松下さんは、学部4年生、修士課程、博士課程と高良和武先生の研究室で研究をされ、博士論文では、完全性の高い単結晶における動力的回折現象に関する研究に従事されました。

学位取得後、富士フィルム麓足柄研究所に3年間勤務され、その後、1975年に東京大学工学部物理工学科高良研究室の助手として着任され、当時、日本で建設が決まりつつあったフォトンファクトリーに備えてのX線光学系の研究に従事され、X線光学素子機能を位相空間で表現する方法を考案されました。この方法は、その後の放射光ビームライン光学系に関する教科書的设计指針になっています。1979・1980年には、米国スタンフォード放射光施設(SSRL)に滞在し、分散型XAFS測定法の開発を行い、時分割XAFS研究の道を切り開かれました。その後、国内外の放射光施設でこの方法を用いた先端的な時間分割実験が行われています。

1980年に高エネルギー物理学研究所放射光実験施設の助教授に着任され、1988年には教授に昇任されました。着任後、フォトンファクトリーのビームライン建設とX線光学素子の開発、更には、ユーザーコミュニティの育成に専念されました。特に初期のX線ビームライン建設に当たっては、多くのビームラインの立案・設計・建設のリーダーシップを取られ、また、早くから挿入型光源の重要性に着目されビームライン建設に当たると同時に、ユーザーと共に新しい研究分野の創出に尽力されました。この間、松下さんは定位置出射型二結晶分光器の開発やイメージングプレートの放射光科学への利用のきっかけをつくるなど、その後の放射光利用研究に大きな影響を与える技術開発に関与されています。その発展の原動力に松下さんの優れた先見性、統率力や研究のアイデアが欠かせないものであったことは国内外の研究者が認めることだと思います。1991年からは、放射光実験施設測定器系研究主幹を務められ、放射光共同利用実験推進およびそのためのビームライン整備全般にわたってその任を負われました。

1997年からは高エネルギー加速器研究機構発足に伴い、物質構造科学研究所副所長としてより広く高い立場から研究所の運営、研究・開発プロジェクトの推進に努められました。特に放射光施設の高度化計画・将来計画の推進、構造物生物学センターの設立、PF-ARでの放射光利用実験の積極的推進などに力を傾けられました。2006年に物構研副所長を退任されてからは再び研究の現場に戻り、X線反射率の迅速測定法を開発され、測定時間をそれまでに比べて3桁近く短縮したX線反射率時間分割測定の道を切り開かれました。以上が松下さんのご略歴です。

私が松下さんに始めてお会いしたのは1975年で、松下さんが高良研究室の助手として東大工学部6号館の地下でX線精密光学の研究をされていたときです。私はその時、高良研の修士2年で、研究テーマは全く異なっていたので、研究上の繋がりはありませんでしたが、工学部6号館の地下で、松下さんとよく卓球をして遊んだことを懐かしく覚えています。

1981年5月には1ヶ月間、松下さんと共に米国のSSRLとBNL(ブルックヘブン国立研究所)に滞在し、松下さんから多くのことを学ぶ機会がありました。

私がPFの助手に採用された1982年以降も、ビームラインの建設、X線光学素子の設計、イメージングプレートでの放射光科学への導入等に関して、松下さんと共に研究を行いながら、多くのことを教えて頂きました。松下さんの研究の進め方は地道かつ確実で、また、どちらかという口数が少なく派手なことを言わないお人柄でしたので、松下さんの語る言葉はいつも深みと重みがありました。

松下さんは2007年頃から少しずつ体調を崩されていたようでした。写真1は、2007年に台湾で開催されたAOF(Asia Oceania Forum)とAsCA07(アジア結晶学会)に参加した後の観光の時に撮った写真です。その頃、「最近、体の平衡感覚が悪くなってきて、困っているんだあ。」と仰っていました。写真2は、2014年8月にPF実験準備棟の松下さんの部屋で松下さんが開発した迅速X線反射率時間分割測定の研究成果を熱く説明して頂いた後に撮影したものです。このときにお会いしたのは松下さんとの最後の出会いになってしまいました。この写真を見ると、今でも松下さんの研究に対する熱い思いが伝わってきます。松下さんのご冥福を心からお祈りいたします。



写真1 台湾の海岸にて。2007年11月

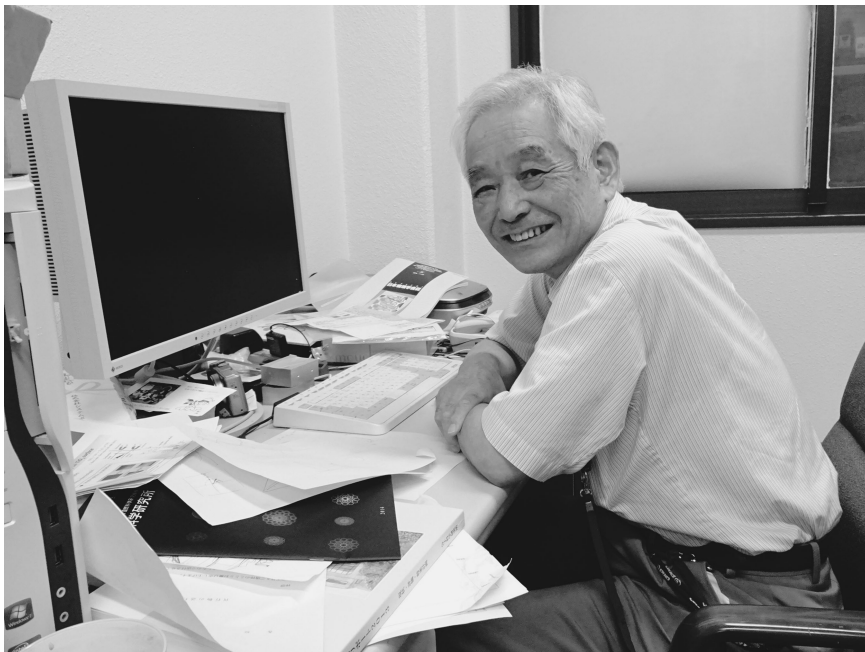


写真2 PF 実験準備棟の居室にて。2014年8月